

HIVI

ハイヴィー—AUDIO VISUAL MAGAZINE 2004

「デジタル家電」満載!

www.stereosound.co.jp/hivi

3



悩めるサラウンド派のためのRESCUE BOOK

最新DVDレコーダーの○と×

読者訪問・ベストバイを買いました!

徹底研究・ソニー QUALIA / ヤマハ DSP-Z9

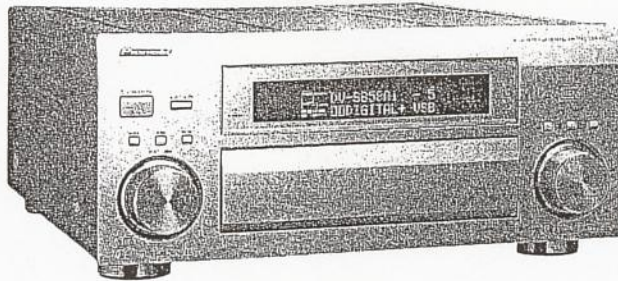
地デジ実験隊がゆく!

ハイビジョン・ワンダーランド「シャングリラⅡ / 松任谷由実」

AVセンターのプリアウトを使って、外部アンプでの9.1chを試そう

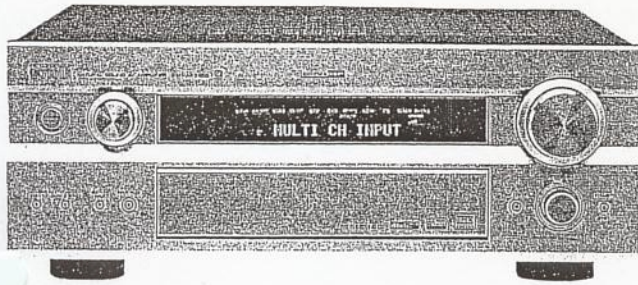
PIONEER VSA-AX5i ¥198,000

●接続端子:AV入力5系統(S端子付)、オーディオ入力5系統(フォノ含む)、7.1ch入力1系統、コンポーネント映像入力4系統(RCA×2、D4×2)、コンポーネント映像出力2系統(RCA、D4)、デジタル音声入力5系統(同軸×2、光×3)、デジタル音声出力2系統(光)、他●定格出力(8Ω):130W×7●寸法/質量:W420×H188×D464mm/約20kg●問合せ先:パイオニアカスタマーサポートセンター ☎0120-800-8181-22

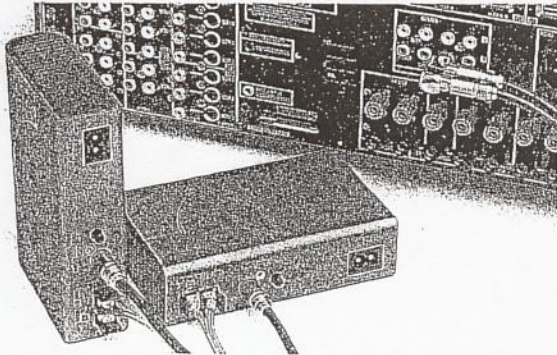


YAMAHA DSP-AX2400 ¥150,000

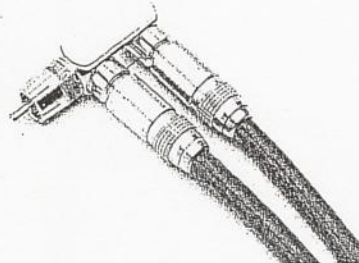
●接続端子:AV入力7系統(S端子付)、オーディオ入力4系統(フォノ含む)、7.1ch入力1系統、コンポーネント映像入力4系統(RCA×2、D4×2)、コンポーネント映像出力2系統(RCA、D4)、デジタル音声入力8系統(同軸×3、光×5)、デジタル音声出力2系統(光)、他●定格出力(6Ω):120W×7●寸法/質量:W435×H171×D434mm/約17.8kg●問合せ先:ヤマハエレクトロニクスマーケティング(株)お客様ご相談センターナビダイヤル ☎0570-01-1808



●9.1ch再生のプリアウトと外部アンプはこうつなごう



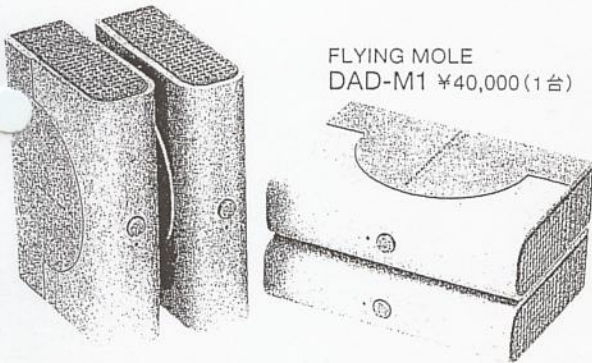
↑2分配したプリアウトのそれぞれにフライングモールのモノラルパワーアンプをつなぐ。もし手元に使っていないパワーアンプがあるなら、それを流用してみるのもいいだろう



↑AX5iやAX2400ではサラウンドのプリアウトはL/R各1系統しか準備されていない。そこで今回は、オーディオテクニカの変換プラグAT7030P(¥3,000、ペア)を使用して2系統に分けている

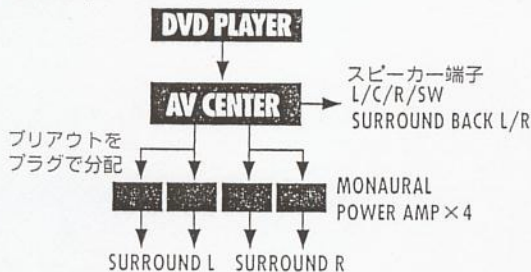
●接続端子:オーディオ入力1系統(RCA)、スピーカー出力1系統●定格出力:100W(8Ω)●寸法/質量:W152×H41×D121mm/約730g●問合せ先:(株)フライングモール ☎053(486)6030

一葉書サイズのボディから100W(8Ω)の出力を絞り出す、1ビット方式のデジタルパワーアンプ。1系統の入力端子には感度ボリュームも準備されており、微妙な調整も可能。場所を取らない設置が可能なのも嬉しい



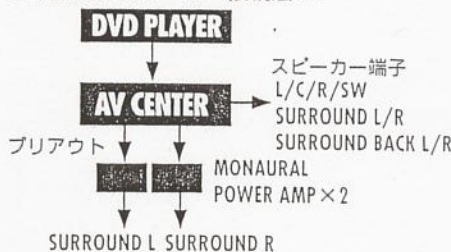
FLYING MOLE DAD-M1 ¥40,000(1台)

●視聴時のスピーカー接続法 1



↑今回の視聴方法。左は4ch分のパワーアンプを使い、サラウンドをすべて外部パワーアンプで購らした場合。右は2ch分の外部アンプを使った場合で、その際は片方のサラウンドスピーカーはAVセンターのスピーカー端子につなぎ、もう片方は外部アンプで購らことになる。ただしすべてのAVセンターでこの方法ができるわけではないので注意されたい

●視聴時のスピーカー接続法 2



未対応モデルでも諦めない！
パワーアンプとの組合せで
9.1chの魅力が堪能できる

最後に、スピーカー端子が1系統のみの場合のサラウンド6本再生を実験した。

これはプリアウトを利用する。つまり、プリアウトを分岐コネクタにて2つに分けて、そこに単体のアンプを接続してスピーカーを増やすのである。ここでは、フライングモールのモノラルデジタルアンプDAD-M1を4台使用。「一葉書サイズ」の高音質アンプだ。これにアンプに並列接続する場合の指定負荷インピーダンスの心配は解消されるし、音質の点でも有利だろう。

まずヤマハのDSP-AX2400で試す。

外付けアンプを追加したのはサラウンドのL/Rだ。S/Bのみ本体から出力するわけだ。当初はS/Bのみ2本、サラウンドのLとRは1本ずつ、すべて本体のアンプで鳴らした。これはアンプが優秀なのかスピーカーと同じメーカだからか、台詞の肉声感や語勢が今回の視聴で最高の水準であった。しかし、サラウンド4本では隙間を感じてしまう。そこで前

記の9.1ch構成にすると、一挙に音場が広くなり、環境音の表情が豊かになった。「トランスポーター」では、微風が空気の濃淡を見せ、オノの風切り音は凶器の質量感を乗せている。「フォッシー」では客席のざわめきが増え、歌声の熱成感が実感的だ。

そして圧巻は「地獄の黙示録」だった。冒頭のへりは、空虚な表情を明らかにしながら

悩めるサラウンド派のための

明瞭な軌跡をみせて移動するのが素晴らしい。厳密には「途中経過」が省略気味なのだ。いかにも逍遙する魂の図になっているのだ。フライングモールド自身が優秀だし、ヤマハと相性がいいようだ。

次はパイオニアのVSA-AX5i。ヤマハ同様に外付けアンプを用いる。7.1chでは解像感と音像の三次元定位が明瞭でなかなか爽快だ。中高域を「つまんだ」トーンであり台詞はくつきりしすぎているほど。

ところがスピーカーを9.1ch構成とすると、音場の存在感が際立ってきて怖いほどになる。低域の力が増してきたからだろう。「トランスポーター」が今回の中で一番派手で楽しいのは、この組合せであった。

最後に、より緻密な描写力を得るべくMCA/Cの自動調整を試みた。サラウンドが「スモール」になってしまったが、チャンネル間のつながりは最高。「フォッシー」は濃密な余韻が蘇ったし、「地獄の黙示録」はヘリの合成音の成分分析が明瞭。そのC8のヘリ部隊の攻撃は金属音がすこぶる冴えているし、轟音の遠近感が克明だ。

全チャンネルを均質にした9.1ch配置はスピーカーの存在感が消え、音場が燃え立つてくるのが魅力だ。

少数配置するのと、小形のものを多数配置するのではどちらが有利なのかは、なかなか決着がつかない問題だ。実際に映画館で実験したり実例を見聞きした限りでは、多数配置するのが有利だと思ふ。ローレベル

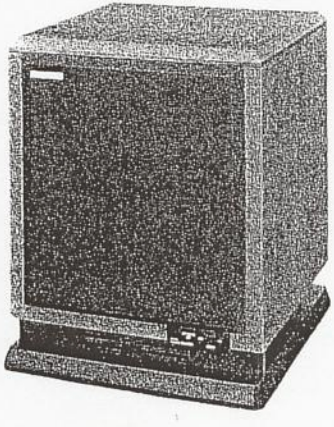
の音圧を「面」として放射する、壁全体を鳴らすことで臨場感が醸し出されやすいからだ。ただし、同じチャンネルの発音源が多いと到達時間差による伝達特性の乱れが問題になりやすい。またデジタル音声になってから、サラウンドにも広いダイナミックレンジが求められるようになったのも無視できない。つまり、強力なスピーカーを多数、客席から十分な距離に配置するのが望ましいだろう。

これはマトリクスサラウンド時代からの課題だが、高音質、多チャンネルのデジタル音声だからこそ挑戦する価値があると思ふ。

<視聴に使ったスピーカー2>

●スピーカー:
ヤマハ
NS-8HX ¥170,000 (ペア、フロント)
NS-C7HX ¥55,000 (1本、センター)
NS-2HX ¥60,000×3
(ペア、サラウンド/サラウンドバック)
一独自のウェーブガイドホーンを搭載した、ヤマハのシアターサウンド用スピーカーシステム。今回は13cmウーファー+3cmアルミドーム型トウィーターを搭載した2HXを3ペア準備し、サラウンド/サラウンドバックとして使っている●問合せ先:ヤマハ株AVお客様ご相談センター ☎0570-01-1808

●サブウーファー:
パイオニア S-W8 ¥85,000
↓デノン、パイオニア、ヤマハのAVセンターにはパイオニアのサブウーファーS-W8を組み合わせた。本機は30cmウーファーとバッシブラジエーターを搭載した強力モデルで、200Wのパワーアンプも内蔵しているのが特徴だ。フィルタースルースイッチを搭載しており、今回もフィルタースルーモードで視聴している



- その他の視聴機器
- DVDプレーヤー:パイオニア DV-S969AVi
 - フロントプロジェクター:ソニー VPH-G70VRJ
 - スクリーン:スチュワート HD130 (16.9/約110インチ)
- 主な視聴ソフト
- <DVDビデオ>
- 「トランスポーター DTSスペシャルエディション」(ジェネオンAEBF-10157)
 - 「フォッシー」(WMJ WPBR-90249)
 - 「地獄の黙示録・特別完全版」(ジェネオンPIBF-7364)
 - 「キューバ・フェリス」(アミューズASBY-1866)